

ハローワーク西陣 地場産業支援に力

ハローワーク西陣（京都西陣公共職業安定所、上京区）が、地場産業の求人サポートに力を入れている。次世代を見据えたキャリア教育を進めたり、人手不足に悩む企業を訪れ、求人票の書き方のコツを指導したりしている。（向野晋）

未来の担い手を育てようと、同西陣が企画した。次世代を見据えたキャリア教育で、西陣織の工房などでも開催した。

厚生労働省が全国18か所のハローワークで行うモデル事業の一環。同西陣では、宿泊、小売り、運輸など観光関連6業種を対象に、4月に職員8人で「地場産業サポートチーム」を編成している。

「お客さまに感謝され、やりがいのある仕事です」
今年の夏休み、中京区の松井旅館本館で開催された子ども向けの職場見学会。松井節子社長は、食器の片



旅館の仕事を見学する子ども（中京区で）

職場見学会や求人票アドバイス

また、求人票の書き方支援にも力を入れる。「求人票」はハローワークの掲示板だけでなく、インターネットを通じてスマホやパソコンでも閲覧されている。

同西陣の森本吉史・統括職業指導官は「最初に魅力が伝わらなければ、読み進んでもらえない」と指摘する。

同西陣は、思うような求人実績につながっていない企業を選び、これまでに約160社を訪れて求人票の書き方などを助言してきた。

酒屋であれば、「店舗での販売、軽自動車での配送、商品管理」など具体的な業務を記す事業所が多い。

こうした表記の場合、森本指導官は、「全国の酒蔵から選び抜いた地酒やワインを最適な温度で熟成・管理し、配送しています。仕事を通して一緒に酒の魅力を伝えませんか」としたお手本を示すという。「ネットの求人票で求職者がまず目にする90文字分のスペースを最大限使い求職者の心に訴える文章に」と強調する。

ほかにも、会場を提供し、中小単独では難しい企業説明会の実施にも協力している。同西陣の木下博司所長は「京都経済を支える観光関連業種の求人は約3割あり、今後も後押ししたい」とする。